



地域とつながること

会長 渡部 伸

■親の会の究極の目標は何だろう、と考えたことがあります。それは、親の会が無くなることではないか。もちろん自然消滅は困るのですが、障害者が地域で他の健常者と同じように生活できるようになれば、そして障害があることによる不当な差別が無くなれば、障害者の親だけで集まる理由はなくなりますよね。その頃には社会に障害が無くなっているのだから、障害者という概念もなくなっているかもしれません。それが理想の社会かなと。ただそんなことはすぐには起きないので、今年も親の会の活動は確実に進めていきたいと考えています。

■なんでこんな変なことを言うか、今年はパラリンピックが開催され、スポーツだけでなく障害者の文化活動にもスポットがあたると思います。そのこと自体は大変素晴らしいし、そこで活躍するみなさんは素晴らしいと思います。でも、私は少し心配なことがあります。スポーツや芸術での自己表現が難しい障害者もたくさんいるのです。障害があるのにがんばっている、障害があってもこんなに素晴らしい絵が描ける、だけでなく、障害があろうがなかろうが、一人一人が頑張っている、障害者というカテゴリーを取っ払って、人として見られることがとても大切だと思っています。パラリンピックやアールブリュットという一部を切り取るのではなく、たくさん障害者がその人なりに生きていることを、一般の方にフラットな目線で知ってほしいんです。

■そのためには、大きなイベントで一時的に盛り上がるのではなく、継続的に区民のみなさんに障害理解の働きかけをすることがとても大切です。世田谷区として、一般区民に障害理解を進めるような施策を、ぜひ

進めてほしいと考えています。もちろん親の会としても、安心ネットせたがやのキャラバン活動などを通してアピールしていきます。

■話は変わりますが、昨年、ショッキングな出来事がありました。私が「親なきあと」の活動をしているのをご存知のある報道機関から、突然携帯に電話がありました。「〇〇さんという女性をご存知ですか？」とのこと。私はその方を知らなかったのと、親の会の会員でもなかったので「存じ上げませんが、どうされました？」と聞いたところ、その方が亡くなったとのこと。その傍らに、おそらく知的障害の50歳くらいの娘さんがいて、亡くなった方は見つかったときにひと月以上経っていたということでした。

■お母さんは近所づきあいもほとんどなかったようで、娘さんも日中活動に行っていなかったとのことでした。何とか食べ物は自分で調達していたので、生きて見つかって本当に良かったと思います。下手したら共倒れパターンです。

■これが一番怖いんです。もしかしらこのお母さんも、娘さんのためにいろいろな情報を集めたり、将来の準備をしていたのかもしれませんが、でも、自分が倒れて、周りが誰もそのことに気が付かなかつたら、いくら親が準備していても何にもならないのです。やはり地域の方とたくさん接点を持つことで、本人も含めた自分たち家族が守られるんだと思います。

■地域の接点をたくさん持つということの大切さを、親の会としてこれからも伝えていきたいし、その一助を担っていければと考えています。みなさまのお力添えも、引き続きよろしくお願いたします。

